

通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援

1 特集について

通常の学級に在籍する学習上又は生活上の困難さを抱えた児童・生徒は、外見から課題が見えにくいため、「怠けている」「反抗的である」などの誤解を受けることがあります。また、本人や保護者も学習上・生活上の困難さが障害に起因していることに気付かずに、必要な指導や支援につながらない場合もあります。そのため、学級担任を中心に児童・生徒の学習上・生活上の困難さを早期に発見し、適切な指導・支援を行うことで、通常の学級で充実した生活につなげることができます。

そこで、本特集では、通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援について紹介します。

2 紙面の活用について

通常の学級に在籍する障害のある子供への支援が求められる背景について、知ることができます。

障害の状態等に応じた教育的対応について、二次元コードから読み取ることができます。

通常学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援

其生社会の実現に向け、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられるよう、適性のある多様な学びの場の確保や、学習支援など、必要な支援を行います。本特集では、通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援について紹介します。

通常学級における支援の充実に向けて

学習面又は行動面で新しい困難を示す児童・生徒の割合（小学校・中学校）
 平成24年度調査結果
 約2名
 約3名

気付く
児童・生徒の対人関係や社会性、行動面や情緒面、学習面において適切な対応に気付く。

理解する
適応上の困難さを抱えている児童・生徒を理解する。

考える
診断の有無により対応を考慮するのは難しく、児童・生徒が抱える困難さから対応を考へる。

高める
児童・生徒のできることを増やし、成功体験を積み重ね、自信や自己肯定感を高めるための指導を行う。

手帳
配慮や支援においては、安心感や自信や意欲を高める関わりなど、心の問題に対する対応が非常に重要です。

合理的配慮を含む必要な支援の内容

学習障害
例：文字の認知が困難で漢字の読みを間違える。

注意欠陥多動性障害
例：注意が集中できず、授業内容が聞けない。

自閉症
例：教室に自分の気持ちを伝えるのが苦手な児童・生徒が居る。

学習上又は生活上の困難さ
・ パソコン、タブレット端末等を使用すること
・ 学習内容の復習、調整
・ 学習面や身体面の確保
・ 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
・ 写真や図表等を用いた説明資料の活用、読み上げソフト等での読み上げ等
・ 服装や髪型に関する配慮
・ 心理面・情緒面の配慮
・ 教職員や児童、保護者から送られる情報を信頼的に取り扱う

合理的配慮を含む必要な支援の内容
・ 専門性のある指導体制の整備
・ 学習支援員、保護者、地域の理解者を確保するための配慮
・ 施設・設備
・ 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設、設備の配慮
・ 実習等での支援体制の整備や施設・設備の配慮も確認しておきましょう。

通常の学級における支援の充実に向けて、各段階における視点について理解できます。

障害のある子供の困難さと合理的配慮を含む支援の内容が理解できます。

御意見ください

所報「たまじむ」において、多摩地区の学校及び市町村教育委員会のニーズに応える特集を予定しております。つきましては、特集内容に関する御意見をいただきたく、御協力をお願いいたします。



持集アンケート

もっと詳しく知りたい

<二次元コード（読み取り or クリック）から、本特集及び過去の所報の解説動画が視聴可能>



解説動画



本特集及び過去の
所報解説動画

通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援



過去の所報
「たまじむ」

共生社会の実現に向け、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられるよう、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を進めていく必要があります。本特集では、通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援について紹介します。

通常の学級における支援の充実に向けて

学習面又は行動面で著しい困難を示す
児童・生徒の割合（小学校・中学校）

令和4年調査結果

平成24年調査結果

6.5%

8.8%

35人学級とすれば

約2名

約3名

気付く

児童・生徒の対人関係や社会性、行動面や情緒面、学習面において適応上の困難さに気付く。

理解する

適応上の困難さを抱えている児童・生徒を理解する。

苦手なことは誰にでもあること、経験や努力不足、意欲の問題、甘えやわがままでないことを確認しましょう。

考える

診断の有無により対応を考えるのではなく、児童・生徒が抱える困難さから対応を考える。

高める

児童・生徒のできることを増やし、成功体験を積み重ね、自尊心や自己肯定感を高める指導を行う。

重要!

配慮や支援においては、安心感や自信や意欲を高める関わりなど、心の問題に対する対応が非常に重要です。

困難さ

学習障害



例：文字の判別が困難で漢字の読みを間違える。

注意欠陥 多動性障害



例：注目すべき箇所が分からない、注意持続の時間が短い。

自閉症



例：他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい。

詳しくはこちらをどうぞ
自閉症 P243～284
学習障害 P285～305
注意欠陥 P306～325



障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月 文部科学省 第3編「障害の状態等に応じた教育的対応」）

合理的配慮を含む必要な支援の内容

教育内容・方法

→詳細は解説動画をどうぞ



- 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - ・ パソコン、タブレット端末等を使用する等
- 学習内容の変更・調整
 - ・ 学習内容を分割して適切な量にする等
- 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - ・ 写真や図面等を用いた視覚情報の活用や、近づいて目を合わせて指示すること等
- 学習機会や体験の確保
 - ・ 興味や関心がもてるよう導入を工夫したり、実体験の機会を多くしたりする等
- 心理面・健康面の配慮
 - ・ 教職員や友達、保護者から認められる場面を積極的に設ける等

参考



所報「たまじむ」通算第86号
各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫

支援体制

- 専門性のある指導体制の整備

参考



所報「たまじむ」通算第96号
通常の学級と特別支援教室との連携・協力による指導・支援の充実

- 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

施設・設備

- 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設、設備の配慮

災害時等の支援体制の整備や施設・設備の配慮も確認しておきましょう。

